

鵬 鷲

HOSAI

「鵬鷲」鵬は翼の幅3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬(おおとり)が飛ぶ(=はるかなかなたの)空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の日指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一步一步目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬鷲」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。

八代経済開発同友会

(通巻第120号)

<http://www.goroyoka-yatsushiro.com>
E-mail:jimukyoku@goroyoka-yatsushiro.com



祝 八代妙見祭の神幸行事 ユネスコ無形文化遺産登録

代表幹事挨拶

平成28年度 八代経済開発同友会

第53代 代表幹事 杉本 隆之

11月の臨時総会において八代経済開発同友会の次年度代表幹事に再任されました。代表として、責任の重さに身の引き締まる思いです。これからも会員の皆様と共に、「活力ある地域づくり」と「幸福感のある企業づくり」という理念に基づいて、積極的に活動してまいります。

今年度はスタート時から大変な年でした。4月14日、16日に発生した二度にわたる震度7クラスの大地震は、驚きというより私の人生観が変わるものでした。まさか、この熊本で大地震。この熊本地震で被災された皆様にお見舞いを申し上げます。また、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。そして、この熊本地震からの一日も早い復旧復興を望みます。私も同友会の代表として、会社の代表として、あきらめず、明るく前を向いて前進するしかない新たな決意をいたしました。

この地震から1か月後の八代経済開発同友会5月例会は参議院議員 松村祥史氏にお越しいただき、「熊本経済復興に向けて」と題して力強い講演をいただきました。政府をはじめ、チーム熊本として、この復旧復興に心血を注いで取り組むという決意を聞いて、会員の皆さまも心強く感じられたことと思います。

さて、私は今年度のスローガンとして「DREAM IT DO IT」と掲げました。

この現代社会は、少子高齢化、人口減少という社会情勢の中で、厳しい価格競争や時代の変化についていかなくは生き残っていきません。そのような状況の中で、自分の夢を描き行動しよう、経済団体として、八代地域の課題についても取り組んでいきましょう、との思いで今年6月、経済四団体の代表

から八代市議会に対し、議長宛、新庁舎建設についての陳情書を渡しました。新庁舎については、街づくり拠点機能を充実させ、経済的な発展につながるものとなるよう、今後も要望を続けていきたいと考えています。

7月例会は八代市長 中村博生氏にお越しいただき、「どうする！これからの八代」と題し、震災後の災害対応から新庁舎建設について、また、八代の持っているポテンシャルを最大限に生かす取り組みについて講演をいただきました。

9月例会「THE 対談 八代のポテンシャルを最大活用」では、金子代議士、永原副市長、小早川県議と私の4人で 1. 八代天草架橋 2. 八代中心市街地活性化 3. 八代の物流センター構想、これらについて討論させていただき、問題解決の方法論や新しい手法についての提言を得ることができました。とても有意義な対談であったと思います。

代表幹事になって、あわただしく7か月が経過しました。11月は御夜、そして八代妙見祭が開催され、12月は八代経済開発同友会にとって今年度最大のイベントである「妙見祭ユネスコ登録 MEMORIAL FESTA」が開催されます。ぜひとも、これを成功させて皆さんと一緒に、ユネスコ登録を祝いたいと思います。

八代地域は経済的発展の可能性に溢れています。ピンチはチャンス！今後もこのチャンスを活かせ！との思いで八代の課題について、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

同友会事業報告

平成28年度 5月例会

平成28年度八代経済開発同友会5月例会は、参議院議員 松村祥史氏（自由民主党政務調査会 中小企業・小規模事業者政策調査会会長代理）にお越しいただき、「熊本経済復興に向けて」と題し講演をいただいた。

被災された中小企業・小規模事業者への経済的な影響の長期化が懸念されるため、中小企業・小規模事業者に対して復旧・復興へ向けた補正予算及び様々な支援策について説明があり、政府をはじめ、チーム熊本で心血を注ぎ取り組むと締め括られた。



新庁舎建設についての陳情書

八代市新庁舎建設についての陳情書を経済四団体から市議会議長へお渡しした。



八代市長表敬訪問

- 八代妙見祭のユネスコ無形文化遺産登録については、登録までに傘鉦などの展示や登録後の取り組みについて
- クルーズ船八代港入港については、八代市街地などに数パーセントでも経済効果を取り込むためにも 観光バスが駐車できるスペースの整備などについて
- 同友会事業の一つ「高校選抜バドミントン八代カップ」については、八代東高校・八代白百合学園高校の両校を主管校に九州内外の強豪校だけが一堂に会し、またこの大会から世界で活躍する選手も輩出している大会について主に上記について意見交換が行われた。



平成28年度「慶寿の会」

恒例である「慶寿の会」がセントロイヤル八代にて催された。古希：中村会員・吉村会員 還暦：杉本会員・吉住会員 徳澄会員・竹永会員 厄入：濱会員



QUANTUM of the Seas 寄港歓迎セレモニー（八代港）



第49回 八代くま川祭り



平成28年8月6日八代くま川祭りに八代妙見祭ユネスコ無形文化遺産へ向けたPR 活動を含め参加した。

平成28年度 八代天草架橋建設 促進民間協力期成会 総会

参加団体：八代経済団体・天草民間協力期成会・八代商工会議所・八代JC・他



平成28年度 7月例会

平成28年度八代経済開発同友会7月例会は、八代市長 中村博生氏にお越しいただき、「どうする！これからの八代」と題し講演をいただいた。震災後の災害対応から新庁舎建設について（合併特例債含む）、また、訪日外国人観光客の本市の対応状況から今後の展望について、教育や人口問題、農林水産業の振興など、これから八代の持っているポテンシャルを最大限に生かす取り組みが伝わる内容の講演であった。



平成28年度 8月例会



中小企業庁 熊本県よろず支援拠点チーフコーディネーター 鹿子木康氏を講師にお迎えし「オール八代！キラリと輝く小さな一番づくりへの挑戦！」～ニッチトップが収益向上の原点～の講演をいただいた。

「熊本銀行ふるさと振興基金」授与式

妙見祭ユネスコ支援実行委員会が2年前より取り組んでいる「八代妙見祭どや顔コンテスト」が熊本銀行様の助成金事業「熊本銀行ふるさと振興基金」に採択された。この助成金制度は、福岡県内、熊本県内、長崎県内で地域の振興・活性化のために活動を行っている団体や個人に対して、活動に必要な資金を助成してする事業である。



平成28年度 9月例会

平成28年度八代経済開発同友会9月例会は、衆議院議員 金子恭之氏・熊本県議会議員 小早川宗弘氏・八代市副市長 永原辰秋氏・八代経済開発同友会 杉本隆之による「The 対談 夢を現実に!!『県南及び八代のポテンシャルを最大活用』」と題し①八代天草架橋建設構想 ②八代物流センター構想 ③中心市街地活性化の「3つのテーマ」について、それぞれの立場での意見を述べていただいた。それぞれの詳細については、八代経済開発同友会広報誌「鵬際」の3頁以降参照。



平成28年度 10月例会

本年12月に「ユネスコ無形文化遺産」への登録となる見通しの「八代妙見祭」。10月例会では八代神社（妙見宮）小林宮司をはじめ金子恭之衆議院議員・中村市長・関係者多数方々にご参加いただき、「いよいよユネスコだ！妙見さん」を開催した。



平成28年度 11月臨時総会

平成28年度11月臨時総会に於いて平成29年度代表幹事は杉本隆之氏の再任に決定した。総会后、八代商工会議所会頭松木喜一氏に講演を頂き、八代にあるポテンシャルを活かした今後の展望について熱く説明をいただいた。



「The 対談」夢を現実に!! ～県南及び八代のポテンシャルを最大活用～

対談者：衆議院議員 金子恭之氏・八代市副市長 永原辰秋氏
熊本県議会議員副議長 小早川宗弘氏・八代経済開発同友会代表幹事 杉本隆之

テーマ① 八代天草架橋

杉本 八代天草架橋建設促進期成会（県南18市町村）を平成元年に設立、民間期成会設立は平成4年、概算工事費801億円という事でしたが、長大橋プロジェクトについては凍結されている事もありなかなか先に進まないようです。凍結解除が先ではないのかとも思っております。概算工事費801億円だから出来ないんだ、無料の伊良部大橋（3.54km約400億円）も、沖縄だから橋ができるんだよと言っていたら何もできないのであって、山口県の角島大橋（約2km）も無料の大橋として実際にできている所もあるわけです。できない理由を述べるよりも、実際にできる方法を考えていただきたいと思えます。

金子 今日はお招きいただきましてありがとうございます。実は国交省の所長もここに来ておまして、スパイかもしれません。

夢の架橋ということで、これまでも八代経済開発同友会も含めて、官民挙げて取り組んでいただいております。実は熊本県の橋架建設ですから、県の土木部が担当なんですね。土木部に問い合わせてみますと、実はこの件はまだ企画の段階で土木部まで企画が入ってきて無いという事です。熊本県の計画に企画としてのせていただいて初めて土木部の方に回ってくるという意味では、まだ非常に厳しい状況であります。しかも熊本県計画には三県架橋があって、これもまだ全く動いていない状況の中で、さらに天草八代架橋という事は計画に組み込み難いかもしれません。国土形成計画最新の平成27年8月に於いては、湾口部、海峡部と連絡するプロジェクトについては長期的視点から取り組むという視点では記載があります。これはどうしても残してくれと言う事で残ったのですが、いま大きく縛りがかかっているというのがガソリン国会（2008年）で民主党から無駄使いと批判を受けたことにより、当時の冬柴大臣が「海峡横断プロジェクト」について記者会見を開き、海峡横断プロジェクトを棚上げする方針を発表しているという事が非常に大きいのしかかかっています。その6つの海峡横断プロジェクトというのが、長崎天草鹿兒島三県架橋、和歌山と淡路島を繋ぐ紀淡連絡道路、大分と愛媛県を繋ぐ豊予海峡道路、伊勢湾の入り口を繋ぐ伊勢湾口道路、関門海峡の横に下関の北九州道路、それから横須賀と千葉県富津市を繋ぶ東京湾口道路です。これら全て凍結になっている中で、さらに天草八代架橋を加えるという事は非常に恐れていたわけでありました。7年前私が国交副大臣の時に議員連盟が発足し、国交省の了解を得て初めて国・国交省の代表として出席をしているのですが、現在も含めて歴代の局長にこういう話をしました。天草八代架橋これは県南を繋ぐルートとして、観光においても防災にとっても非常に重要な道路である。これは実現不可能なんだろうかと問いましたところ、先生、夢というのはずっと語り続けたいといけません。遠慮して語らなければ将来的にゼロです。夢を語り続けていけば今は駄目かもしれないけれど、その環境が整ってくれば、これが実現に向かうという事はあ

り得るんです。ですから自信を持って夢を語り続けて下さい。という事でありました。熊本県計画にも入っていないわけですから、正に官民挙げて地域を盛り上げていく、まず県の計画に組み込んでいただかなければ、いくら国に言っても無理な話なんです。それには経済団体を中心となって、地域を盛り上げていくという事が必要であります。行政だけでなく、その地域の盛り上げをどうするかという事ですので、是非この機会にもっともっと色々な側面から県を突き上げ、そして夢が実現するようにですね、一緒に戦って参りたいと思えます。

永原 天草架橋については平成12年、当時企画次長の頃から随分長く関わっております。合併後なんだけれども総決起大会を行いました。当時、金子先生には国交省副大臣としてお越しいただき、パトリア千町が満杯で盛り上がり、その時のパンフレットが皆様のお手元にある分です。当時のルートは今と違っておまして、金剛から大築島を通過して天草へ行く長大橋であり、鉄の橋は2,000億円程かかるというようなことでありました。平成17年の総決起大会を契機にですね、当時の県の企画部長さんが思い切った発言をされた事によって調査費がつき、我々ももちろん予算をとって調査をし、今の計画概算工事費801億円を導き出して、コースも新たに短いコースへ変えたというのが当時の流れでありました。もともとこれは県の計画で、細川知事が出された90分構想に基づいてやってきたんですけれど、2,000億円という数字が現実的ではないという事でフェードアウトし、いつの間にか県計画からも消えていったという事なんです。先ほど金子先生がおっしゃったように、県の計画にまずのせる為には、どのような工法が適切で、工事費用がこれくらいだということをごんごん提案をしていかなければならないと思ひ、その一つがPFIという手法を導き出したということなんです。ただこの概算工事費801億円というのがPFIだからできるということではなく、当時普通にやっても801億円です。PFIであればもっと安くできるかもしれない、民間が先にお金を出してやれば違う手法で出来るのではないかと。勘違いされないようにPFIだから安くできるという事ではないという事ですね。それは後で出てくる手法の話であって、当然かかる費用をどう捻出するかと言う事がですね、これは税金であり民間のお金であり、これらを集めてやる事になりますので、そこは勘違いされないようにしなければいけません。その後、実はもう一回調査し直したのが平成23年、県が調査をし、B/C（ビー・バイ・シー 費用便益比率、benefit by cost）が出ないねという事でフェードアウトしていったと言うのが今までの流れです。ですからこれはもう一度盛り上げないといけない事じゃないかなと思えます。

そして県の計画にのせる事が大事だと思います。今回の震災によって橋の見方というのが少し変わってきたのではないかなと思えます。そういった事を踏まえながら進んでいく事が必要ではないかなと思えます。

小早川 民間期成会杉本会長からひと月程前に、期成会

として知事に面会したい面会する場を設定してほしいと要望があり調整をお願いしておりましたが、県は天草八代架橋に対して非常に慎重であり、民間期成会レベルでの知事への面会はできてい無い状況であります。県議会は今まで何をしていたのかと皆様方も疑問に思われる事と思いますが、30年前（昭和62年）の一般質問に於いて、私の父が細川知事に質問し、この時は調査をすると答弁があり、県議会の質問も平成元年位が一番盛り上がっておりました。振返って見てみると平成6年位までは各地域の県議の先生方が、本会議での質問をされている状況であります。私たちの反省点として、平成21年で本会議の質問や要望が終わっているところで、私たち県議会での議論を深めていく事も大切だと思っております。県の答弁を振り返りますと「長期的な視点にたって進めていく・検討していく」という答弁しか無い事から、議員の立場としておさまりの答弁であればと言う事で県議会での質問が少なくなっていく状況であります。代議士や副市長からも県がもっと動いてほしいと意見がありましたけれども、県議会での過去の答弁、あるいは民間期成会からの要望を県に問い合わせた状況を見ると、なかなか県も消極的であります。800億の財源をどう捻出するか、いまは財源の見通しが立た無いと言う事もあり県は消極的な姿勢であります。かといって金子代議士が言われるようにこのまま諦めてはいけない、どのように実現していくかを四つ考えました。一つは金子代議士に早く国土交通大臣になっていただく。架橋を国家プロジェクトに上げていただき、大臣級の予算を付けていただければと思います。二つ目は800億円の資金捻出という問題に対し、民間で建設費の5%約40億円、これを民間期成会で捻出する。杉本会長にはそういう取り組みも考えていただきたい。市も5%約40億円を準備できるのか、残り720億円を県と国の負担にするという考えです。これまでの県の道路工事によると、おそらく150～200億程度の負担しかできないだろうと考えます。今動いている県の事業予算が200億円程なんですね。とすると県から200億円がMAXとして、国から500億円負担していただくような案を県に提案して県にやらんのですかと、具体的にこれも手法かなと思います。三つ目が世界からの投資を呼び込む。四つ目が地元の機運を盛り上げていくという風な事が大切ではないかと思います。この四つをご提案させていただきたいと思います。

金子 建設に関して色々な問題もありますが、まずは県の構想の中に入れる事が必要ではないかと思います。海峡横断について某道路局長がこんな事を言うておりました。先生、海峡横断はすべて悪いというふうに言われているのだけれど、関門海峡はどれくらいありますか？800m位しかないですって。一方、大井川を渡す橋は1km以上あるんだよと。海を渡すのはダメで川を渡すのは良いのかということもあると。そういう意味では全て海峡横断が、特に八代海は浅瀬ですから伊良部大橋と同じような形で巨大な吊り橋などを建設する必要はないわけですから、そこは経費は削減できるんだろうと思います。それともう一つは、八代と上天草だけでやっついてはダメなんだろうと思います。これは熊本県全体の大きな事業であります。今日もクアンタム級の大型客船が入ってきています。来年は70席ほどのクルーズ船が入ってくる予定もあります。毎週クルーズ船が入ってくる、年間100隻200隻と・・・？そういう人たちが何を考えているかということですね、今阿蘇や熊本城がこのような状況の中

で、乗客はいろんなリサーチをして県南に流れてきております。その一つの大きな目玉が、世界遺産、あるいは歴史的なものを外国人は非常に好みます。ですから三角西港が世界遺産、万田坑が世界遺産、そして2年後には崎津の天主堂が長崎の教会群と一緒に世界遺産になります。人吉は日本遺産というのがあります。そして水俣には環境都市として非常に大きな物があります。そして八代妙見祭は今年ユネスコ無形文化遺産になるという意味ではですね物凄い魅力的な観光ルートができていくんです。そして聞くところによりますと、架橋に関して議会レベルでは水俣市議会も、人吉市議会もまた天草も宇城も賛同してくれるということでもありますので、八代と上天草だけで活動しているだけでは、小早川副議長が言われたような壁は乗り越えられないですね。これは有明海と八代海を繋ぐゴールデンルートとしてやっていくためには、世界遺産だ！日本遺産だ！ユネスコ無形文化遺産だ！と、クルーズ船が寄港している今がチャンスなんですね。先日ダイヤモンドクルーズが寄港した時に小野副知事が来られました。その時ここに橋をかけたらいいですよねと言ったところ、小野副知事もそれは良いですねと言ってくれました。今はそういう流れがきていると思います。ですからもっと大きな塊にすることによってですね、県南地域の大規模装置として動かす大きな武器なんだと。それをもっと経済界、行政に働きかけて、もっと大きな塊にしていかないとこの壁は越えられないと思います。

杉本 先ほど小早川副議長より民間期成会で建設費の5%約40億円とありましたが、これを聞いて難題だと感じております。この事業についてはやはり国家的プロジェクトでありますから、これまでの補助金と同じように、国が3分の2、県市で3分の1が理想だと思いますが、副市長の話の中でPFI800億円、なかなかB/C費用対効果が出ないとありましたが、天草の人たちにとっては二方向に安全を確保するということを考えたら、安心安全で災害時の対応もできやすいという点では、余りB/Cにこだわる必要がないのではないかと思います。B/C調査委員時は0.3～0.2くらいだったと思いますが、この数値を減らす方向で出来る方法を考えていただけたらもう一步先に進めるのではないかと思います。

金子 杉本氏が言われたように、如何にしてコスト削減するかということは必要だし、県にやれと言っても無理なんですね。本日は国交省所長も来ておられますので、これはある程度構想に乗ってきた場合の話です。一つ的前提としてまずはこの構想図を見るとですね、臨港線を延ばして架橋が出来ているんですね。臨港線は国道ではありません。ですから3号線からの臨港線を国道に昇格させる。あるいは天草に57号線がありますからそれを八代方面に向けてやるしか方法はないんだろうと思います。そうすれば、国が3分の2負担です。地元が3分の1で



すからかなり地元負担は減ってくるのだと思います。この考えだけで国道昇格が先走るといけませんので付け加えます。クルーズ船がどんどん寄港し始めればそういう機運もできますので、そういうやり方もあるということです。それを今の県にやれと言っても無理ですから、やる方法として、もしこれが現実的に動き出せば、そういう方法があれば、このような大きな国家プロジェクトを県道でやることはあり得ないので、やるからには直轄に昇格をした中で、八代側国道と天草側国道をつなげていけば3分の2は国が出せるという方法があります。これはここだけの話で、これが一人歩きするといけませんので、まずはですね、地に足をつけた運動を進めていくことが必要であると思います。（文責：三枝崎）

テーマ③ 中心市街地活性化

永原 今コンパクトシティという提案をしていただきました。コンパクトシティと言いますと、一定のエリアの中に都市機能を集約しそこに居住区間を設けて、要はそのに住みやすい街を作ろうということかと思います。今我々が、この中心市街地をどのように考えているかをお話したいのですが、その前に、中心市街地活性化計画をというご提案なんです。実は、以前に実際そういった計画に基づいてこのエリアのまちづくりをやりました。その中で、現状の通りなんですけども、マンションも数棟建ちました。商業施設としては、マックスバリューが誘致した位置付けで、今営業されております。そういったことで、これをまた同じ事をやるのかということ、どうなのかなとも思います。

中心市街地活性化基本計画というのは、計画の手法としての一つなんです。いろんな計画の作り方がございます。例えば、誘致適正化計画であったり、都市再生整備計画等々、この計画が出来たからといって、いきなり国からお金がかるとかということそうじゃないんですね。その計画に基づいているんな事業を具体的に計画をし、その事業に基づいた補助金や交付金、起債であったり、そういったものを使っていくというのが実際の開発のやり方なので、計画を作ったからといってすぐできるものじゃないという事をご理解していただければなと思います。

現在、中心市街地を考えた時に、どうしても我々の中に中心にしていかなければならないのは新庁舎でございます。新庁舎はずいぶん時間がかかっておりまして、なかなか議会との議論が進んでおりません。スケジュールがだいぶ遅れておりますが、この議会に基本構想をお示しました。それに基づいて現在補正予算、これは設計の補正予算を提案しておりますが、23日の最終討論採決の結果によって違うんですが、その前に月曜日の特別委員会では、全会一致で通りました。要は集中型か分散型かという議論が続いていたんですが、一部分散、新聞等で見るとかなり分散というイメージで捉えられているんですが、一部分散とは、市民の皆様に大きくご迷惑をかける部分については分散をしても良いという考え方でございますので、基本的には沢山の機能を集中させて、ご迷惑かけない部分については、千丁と鏡を使っていくという考え方でございますので、大きく分散させるという考え方ではないという事だけご説明させていただきたいと思います。

それとこの新庁舎を中心としたまちづくりの考え方なんです。今我々がどのように考えているかというのは、商業というか物販だけの施設の集まりとしては

く、この街に、この八代のここに、人を集めるような町と言いますか、そういったものをイメージして考えているところでございます。

八代の町を考えた時に今までの成り立ちと言いますか、この町がどうやって出来てきたかということ、私は歴史だと思っんですね。八代城を中心として武家社会、それからそこに城下町に生かされた町方集が商売されながら繁栄されてきた。これは妙見祭の行列を見るとよくわかると思うんですが、それがこの町の成り立ちだと思うんですね。もう一度我々は、この考え方を大事にするべきなんじゃないかなと思っています。

つまり、そういった歴史、文化を大事にした町の作り方をもう一度やってみたらどうかという事で、いま我々は、実は景観計画というものを作っていこうという事で、9月の議会に補正予算をお願いしております。先ほど言いました景観計画を作り、この町の作り方、統一した町にしようという作り方、それも歴史を大事にした作り方。これはですね、実は市民の皆さん方と協定を結ぶ必要があるんですね。同じ町を作りますよ、例えば、自分の家の前を触るときに統一したデザインを使って作っただく、それに実は補助金が出る、これは国交省の補助事業になるんですけど、そういったものを使いながらやったらどうでしょうかということ、今から提案していこうと思っております。そのための計画づくりをやっております。

それと、道路をどういった作り方をしようかという事で、道路の計画を作るんですが、そのための交通調査を今年度から始めようという事で、今議会に提案しているところでございます。これに基づいて新たな作り方と言いますか、町の作り方をきちっと計画を作り、それにのって、今後は具体的な事業、先ほど言いました、まちづくり交付金事業だったり、そういった事業をやりながら国から支援をしていただけるような、支援をとりながら町を作っていこうと考えております。

つまり、この町に人が集まる、要は、ここに住むことも大事なんですけども、先ほど金子先生がおっしゃってましたように、クルーズ船がこれほど寄港するようになってから、いかに滞留してもらう為のそういう見せ方とかも必要だと思いますので、そういったものをこの町で体現できたらなと思っています。そういったことで、沢山の人来ていただいて、そしてお金を落としていただく、そしてそこに住む人と協定して、そこに住みやすい町づくりをしていければなと思っております。以上でございます。

杉本 永原副市長からは新しい街づくりに対するビジョンのようなものを示していただきましてありがとうございます。

今までの中活の認定、これはメニューが少ないという事で取り下げられたんですけど、まちづくりに対して、先日、八代商工会議所で日南市の油津商店街にお伺いしました。日南の崎田市長は37歳なんです。そこに全国からテナントミックスサポートマネージャーという形で募集され、330人応募した中で木藤さんという方が選ばれ、この方が4年間で20店舗開店させるという市長からの命を受けて、いま実際に16店舗ほど開店させておられるんです。いや、すごい手腕だと思うんです。それだけではなくて、一人30万円の民間資金を活用して、油津応援団

という形で新しい喫茶店を営業されて、それ以外のプロデュースをやっています。

ただやり方というのが、八代でもまちづくり会社や再開発もやられているんですけど、八代の再開発といっても実際に10億の2／3の3億で、このためにそこに3億のリスクを背負ってやれるかというとなかなか僕は難しいことかなと考えております。また、中活のまちづくり会社などをやられたんですが、その点油津商店街は、ちゃんと期限を切って目標を与えてサポーターというかできるプロデューサーをそこにに入れてやるということは、非常にいいアイディアだなと、実際に実績も挙げられているということで凄いなというふうに思います。

これも商工会議所の視察で行ったんですが、佐賀県の武雄市の図書館はもう全国的に有名ですけど、実際にTSUTAYAさんと武雄市がお金を出し合ってそれで図書館運営をされております。サービスは朝9時から夜9時まで、実際にサービスの質が落ちるかと思ったら、図書館司書などはそのまま、逆に増やした形でやっているということでありますし、そこでコーヒーを飲んだり、本やCDを借りたりできるということで年間80万人位の誘客をしているということです。ここ3年は赤字の状態だと出ておりましたが、実際TSUTAYAさんの方は黒字になっているということで、その辺は指定管理とか委託管理をしているわけなので、そこは上げたらいいのになあと、赤字の幅はそんなに大きな幅ではなかったので、そこらへんは全然心配ないのではないかと考えております。

それと新庁舎建て替えも大きな問題であると思いますし、特にクルーズ船のお客さんを八代へ引き込む手法も重要なんだと思います。バス5台、10台のスペースをちゃんと中心市街地に確保しないといけないと思いますし、そして八代の豊かな農産物もありますので是非、農産物だったり物産であったりを消費する循環を、八代で回る循環をそこに作っていただけたらというふうに思います。八代市役所の中では難しいのかもしれませんが、そう言った循環システムを作ることが非常に重要だと思います。

もう一つは、先ほども話がありましたように、今年の12月八代妙見祭がユネスコに登録になって全国からお客さんが来るようになった時に、折角、年が明けて1月、2月に来たら何もなかったよねという事じゃ非常に不満だなというふうに思っております。販売所も伝統継承館という形でそう言った施設ができたらいいですし、八代市や市議会の方にも要望書を出されてるという事で、是非そういった施設ができ、そういったまちづくり拠点機能を市役所の中につくるとか、図書館は民活を利用して誘客をできるようにするとか、やっぱり今少子高齢化で人口が減少している社会の中で誘客するような形の施策をとっていただければと、この様に思っております。

金子　先ほどからお話がありましたように、中心市街地活性化の1回目、安倍総理、渡辺大臣の時のだったんですが認定されました。その時の八代は盛り上がったんですね。その時の認定された条件というのが、全国でここが活性化できればモデル的なケースになるという最低の基準だったんですね。その間、専門のドックをやって八代の担当官にいろんなものを研究させていただいて、資料を出していただいでできたんですね。あの認定というのは、目的ではないんですよ。でも今よく考えると、もう総理大臣認定をいただいたから大丈夫ばいと安心してしまったところがあって、これは副市長からお話があったように、これに認定されれば、この地域でやりたいという事に対して、優先的に国が支援をするというスキー

ムだったんです。でもまあ、アーケードを作るとかアーケードを作らないとかいろんな地域で話があるんですね。アーケードを作れば人が来るんじゃないかと言ったけど結局だめで、ボロボロになって結局アーケードを取り外したという地域もあるしですね、その地域でどういうコンセプトでその街を作っていくかということだと思います。

八代市役所、それから熊本総合病院、そしてこの本町の商店街等々を含めてですね一つのコンパクトな街、その点についても今は自動車社会ですから、そりゃ大型ショッピングセンターに車はいくらでも止められる、何でも揃っている。朝早くから夜遅くまで開いているということで、そちらに行かざるを得ないんですね。ですから代表幹事がおっしゃったように折角ユネスコの無形文化遺産に登録される可能性が非常に高くなっているわけでありますので、ハーモニーホールでやったパネルディスカッションの時に言ったんですけども、妙見宮とか、あるいは人吉・球磨の中には日本遺産がいつでもそこにあるんですね。でも、妙見祭が無形文化遺産になったわけですが、妙見祭は11月23日以外に行っても何もありませんね。そういう用意が妙見宮に行けばあるのだけれども、ですから御夜みたいに、後からつけたみたいに、毎月御夜みたいなものを作って商店街に人を集めて行く。あるいは、千葉、川越のような独自の日本のな町並みを作る景観条例に向けていくんだけど、じゃあ本町のアーケードを歩いてみましょうと、外国人というのは歴史的なもん大好きですから、そういうものを見つけてはそこに入っていく。あるいは、ここには、陶器もお茶もいろんなものがあるわけだから、さっきも代表幹事にも控え室で言ったんですけども、野点をしていただく、抹茶を外国人用に作って売って行くとか。いろんな環境づくりをしながら一つの物語を作っていく。

甘利経済産業大臣の時にアーケードを歩いていただきました。その時ここは日本のミラノになるんじゃないのっておっしゃったんです。それは、だいぶよいしょもあったんでしょうけど、ミラノは行ったことはございませんが、その町並みから見ると教会が見えるそうなんです。で、たまたまそのアーケード街から見た時に八代宮が見えた。八代宮のイメージで、例えば、い草のベンチを置いて行くとかですね、いろんなところで統一的なやつしろのコンセプトを作っていくないと、ただ町並みを綺麗にしましただけではいけない。もちろんお金もかかるんですけど、そういったトータルのデザインを誰が描いて行くのかというのがあると思うんですけど、いろんな人たちが、人任せではなくて意見を出して、スーパーより高いかもしれないけど、ここにいけば、それ以外のサービがついてくるみたいな、来年から毎週一回あの人たちが来るんですから、しかも欧米人が来るとですね、今回もダイヤモンドプリンセスが来た時にですね、普通100台くらいのバスが並ぶんですが、30台しか来てないんです。それ以外の人たちは自分たちで、八代には何があるんだろうかと、八代宮に行き、あるいは松濱軒に行き、そうゆう勉強をしながら、タクシーとかを使いながら、自分たちで観光していただけるわけですから、そういう魅力的なまちづくりをして行くと、ちょっと無責任な言い方かもしれないけど、そうでないとなかなか厳しいのではないかな。でも、目の前にチャンスはあると思います。

小早川　中心市街地活性化というのはですね、政治的な大きな課題だろうと思います。どこでも中心地の空洞化が始まっているということですね、私もの母の実家が

近くにありまして、そういう関係で小さい頃にはよく本町に来ておりまして、非常に愛着のある地域でありまして、昔の活気が蘇らんかなあといつもですねこの辺に来ると感じているところでおります。

この地震で鶴屋彩館がなくなり、さらにこの本町が空洞化して寂しい雰囲気が漂っておりますし、本町の活気がないということは、八代全体が寂しいような感じを受けております。街の中心が賑わうと輝いていて八代全体が輝いて見えるのではないかと考えておりますし、私が小学校の頃ですね、本当に町を楽しめるというか、町を実感できるというか、町の面白さを実感できるところだったんですね。もう一度ですね、そういう活気のある町を作っていくかなければならないと思いますし、その材料はいっぱいあると思うんですよ。例えば代議士が言った色んなイベントをしていく、土曜夜市はこの前3回ありましたけど、たいぎゃ賑わっとつですよ。昔の八代だと思いましたね。昔の本町アーケードが蘇ったのかなというふうなことを感じましたし、常にイベントがあって人が集まって、あるいは、今空き店舗が非常に多いということなので、空き店舗を無料開放というか、補助金制度を使ってですね、ミニアウトレットモールじゃないですけど、アーケード自体をアウトレットモールにするとかですね、いろんなアイディアがあると思うんですよ。そういったアイディアを出していける人材をそこに当てていく必要があるのではと思います。

今、女性の方が非常に頑張っておられますが、そう言った頑張っている人を盛り上げていく、八代の非常に大きな欠点はですね、人の足を引っ張る地域だと言われておりまして、そういった人を育ててこなかったという部分で、この八代の活力が削がれたということがあると思いますので是非、人を育てていく子供たちをちゃんとして育てて、都会に出ても八代に愛着を持って戻って来ていただいて、一旗上げてもらうとか、そういう地域性も私たちが作って行かなければいけないというふうに思っております。それは、こういったまちづくりを通してそういった人材を育てていくということも大切なんだと感じております。

杉本　八代中心地市街地活性化基本計画というのは、結局平成18年から23年、認定を受けて5年が過ぎて、その後まちづくり協議会とか、今、江崎さんとか中心になってやってこられてます。実際に、全国の頑張る商店街の30選ということで選ばれてもいますので、全然何にもやってないということではないんですよ。よくやっていらっしやると思います。ただ、そこにお金がついて来てないというかですね、ソフト事業は確かに色々、市から商工会議所を通じて色々お金も入って来ております。ソフト事業については色々できるんですけど、ハード事業という金、その辺の金額が大きいことになるとちょっと難しいことになるのかな。その辺は、やっぱり市とそして国の補助金とかそういうのを使いながらやって行かんと難しいのかなと感じたりしております。市庁舎は平成32年ということなんで、まだ4年近くありますので、それまでに未来のことを言うのはあれなんですけど、後4年のうちに例えば、妙見祭が認定になった時に、すぐできることと言ったら博物館であるとか、図書館であるとかに、妙見祭の関連のグッズであるとか、そういった資料であるとか、見せるところをちゃんとしておもてなしの準備をしておかないと、それは失礼になるのかなと思います。せっかく来たのに何もなかないじゃ済まされない話だから、そのへんはちゃんと市の方の対応として

もですね、博物館を利用するとかですね、そこら辺のところですね、伝統継承館ができるまでの間でも結構ですので、そう言ったものを年間通じて展示できるような形でしていただけるとありがたいかなと言うふうに思っております。

永原　はい、ありがとうございます。少し言い忘れていたことがありますので、実は庁舎の中で建物だけがとてもクローズアップされているのですが、われわれは、庁舎の位置付けを建物箱物とするだけじゃなくて、要は、この賑わいの創出の場と言うふうに位置付けをしております。箱を作るんじゃなくてその周辺、庁舎の敷地も含めてどういった作り方にするのか、そこに人を呼び込むような作りにならなければいけないのかなと思います。

それと、アーケード街本町をどう繋ぐか、後の道路の整備の仕方。どういった道路を作っていくのか、ただ車を通すところじゃなくて、人がどうやったらフリーで歩けるのかとか、そういったことも含めて庁舎を考えていると思っております。

それと先程言いましたこのエリアの考え方ですね。先程代表幹事がおっしゃいました、要は伝統継承館ができるまでって、まだ作るとは決まっておりませんが、そういった方向で只今様々な議論をさせていただいております。かなり近づいて来ているとは思いますが、まだ、予算など何もしておりませんので、作るとは今はっきりとは申し上げられないんですけど、ただそれをどこに作るのかとかですね、いろんなことを今から議論していかなければいけないんです。それまでの間、代表がおっしゃるようにソフトとして来られたお客さんにどう見せていくんだと言うようなことは大事なんだと思ういます。今ある施設の中で、見せ方の工夫をしていく必要があるのかなと思います。その延長線上に新たな施設とかが出てくるのかなと言うふうに思います。

それともう一つ、あの中心市街地の考え方として、今までの商業地のあり方としてこのままやっていっていいのかなと思います。相当環境が変わって来ておりますよね。例えば大型店が郊外に出て来ておりますし、今まで通りの位置付けでここを作っていったらいいのかなと、どうなのかなと思います。

新たな魅力と申しますか、そこに人が来ていただくという目的作り、それはそこにものを置くということだけじゃなくて、勧誘していただいて、そして、結果としてそこにお金を落としていただくということがこれからは求められていくことではないのかなというふうに思ってますし、そういった環境に徐々になって来ているような気がします。そこにじゃあ具体的に何を作っていくのかというのがあると思います。

21世紀パチンコ店のあとになにか作ってくれとか、鶴屋の立体駐車場をなんとかしてくれとか声が沢山ございます。それは、事実なんだろうと思います。ではそれを全部行政でやって、どれだけできるかわかりませんが、行政がやってしまって果たしてそれで賑わってくるのかというと、そこはクエスチョンというのがあると思います。

要はそこで何をするのかということをしっかり議論して行かないといけないと思っております。そこで事業をしていこうとしているんなことが出てくるんじゃないのかなと思っておりますので、なんもしてくれないというご意見を沢山いただくんですが、決してそうではないということを是非ご理解いただきたいと思います。一緒に街を考えていければなと思っているところでございます。

進行補佐 田邊 本日、市街地活性化をテーマとしたのは、実は多分、ここで暮らす私たち人間にとって一番身近で、切実な問題だと思います。八代市の推計で2060年には人口は68,000人をきると、これは推計ですができている。じゃ、68,000人が具体的にどのように分布するのか、とりあえず空き家が増えるんだらうと、もっと具体的に想像しないとイケないと思います。そういったことを想像したところで、コンパクトにやっぱりまちづくりをしていかないとならない。私たちの子供や孫への責任世代として、もっと真剣に取り組まないとイケないと思います。私たちこのやつしろは魅力的な街かという、みんな正直魅力的とは言いきれないと思います。じゃ、暮らしにくいかという暮らしやすいと思います。じゃ、この暮らしやすいは何が支えているかという、やっぱり大きな資本でしょう。ではこの68,000人になった時に八代に残っているんだらうか。生活彩館は撤退しました。本当に切実な問題だと思います。

これを官民が本当にこれを具体的にみんなで近い将来の切実な問題だと想像して、これを回避して、回避するだけではなくてもっと、今みなさんのいったような形にしてくためにはどうしたらいいかということ、官民できちんと捉えていく必要があるのじゃないかなと思います。

金子 先程代表幹事から、現場は何もしないじゃないよというのがありました、それは当然わかっております。逆に言えば本当に何から手をつけていいかわからない、で自分たちがどういうふうに関わっているかわからないという意味では、商店街の人たちが自ら考えるというのはなかなか厳しいわけだから、それに商工会議所、経済開発同友会、経済4団体が協力しながらですね、外から見てアドバイスをしなないとダメなんだろうと思うんですね。じゃ、妙見祭でいくなれば、アーケードのどっかに必ずここに来たくような名物を作っていく。雪餅というのは一年間に一回しか食べられないんで、例えば、ユネスコに登録された30何団体のスタンプラリーとか、一年で全部周って、ここにいったらハンコを押して一つの景品がもらえるとかですね、その様な全国と連携するということの一つの手なのかなと思います。

太宰府に行ったら梅ヶ枝餅ってのがありますが、じゃ、あそこにいけばこんなものがあるよみたいなですね、グッズも含めてやるということ、今度庁舎ができる、今、基本設計ということなんですけど勿体無いですよ。ある意味では今ならいくらでもできる、それも85.5パーセントの国の補助がある中で、実は八代は26,000平米まで建てることのできるんです。これも補助対象なんだけども、23000になって、それもどんどん経費削減になって19000になっている。

補助がなかった人吉は、100パーセント自分たちでお金を出さなきゃいけなかったんだけど、市長が方針を変えて防災拠点を作るということで、外にあった水道局や保健局も全部入れて4000平米を9000平米までですね、そういう意味では副市長という話ではないんですけど、これから基本設計する中で19000平米でできるかわかんないけど、八代の魅力を取り入れるような部分があってもいいんじゃないかなと僕は思っています。議会の中ではもっと削減することを望むと言われてはいますが、庁舎の中に複合してきてあればいいねっていうものがあればですね、経済界からも発言をしていただきたいと思います。個別にやろうとすればですね、補助金は無いわけ。85.5%というのは、それでも額が大きいから大変だということかもしれないけど、これは長い間の八代の拠点を作るため

の大切な大切な事業であります。他都市の庁舎を建て替えるところでは、前向きにこんなものを入れようこんなものを入れようと、せつかく85.5%という、個別にやればつかないような補助金をもらえるんだから、この際将来的なことを考えてやっていこうという流れになっているので、その辺を庁舎の中にこんなものがあるといいよねみたいな将来の八代を見据えて、この八代市街地を回遊できるわけありますから、そういったものもちょっと工夫していったらいいのかなと思っています。

杉本 金子先生本当にありがとうございました。先生からそういった意見が出ると本当に嬉しく思いました。実際、市役所隣の熊本総合病院、あそこは30,000平米、約90億でできると言われますしね、市役所の執行部案とか結局20,000平米、19,000平米とか言われているんですけども、ま、90億とか金額は出てますけども、実際100億とか、そう考えてみますと、隣のビルは30,000でそんな建設コスト安いのに、なぜそんなに高くなるんだらうか、20,000平米くらいになると同じ金額になるんだらうかというのは考えたことはあります。一般的な発想として。それと、新庁舎に関しては先程武雄の話にありましたように、ああいった図書館が屋上にできたらね、そしたら、そこまでみんな上がって見たら夜景見ながら色々食事できたりとかって非常に楽しいなというふうな発想もできるかなと、例えば最上階に展望風呂じゃないけど、そういったことができれば、八代で一番高いビルということで、日奈久温泉の源泉をもってそこに入れ込めばそりゃすごいことになるなという、そういった発想があれば、全国のモデル地区となって、みなさん県外から来たいと僕もいつてみたいというふうになると思います。そういった発想があれば楽しいなと思います。

金子 すみません、僕は大きいほどいいというのではないというのはわかってもらえてますよね。こういう機会ですから地域の活性化のためのアイディアはないかなと、市長も苦しんでやはり議会のこともあって、そこまで持って来ているのでありますので、それはそれとして流れとしてはいいと思うんですけど、もしできればね、意外と気づかない分こんなのを市役所に入れたらもっと市民生活がうまいくじゃないか、この地域の活性化のために必要なものがあるんじゃないか、それをもう一回考えてみると、ひょっとしたら、議会の方々もそんな発想があるんだらう、コストは多少上がるかもしれないけど、これから20年、30年、50年のものであるから、それが中心地にあつたらいいよねとご理解いただいたり、いいんじゃないかなと思います。今回の案を別に否定しているわけじゃないんです。チャンスなんで、なんか少しアイディアないかなと思った訳でございます。

杉本 先ほど話した時に非常にいいアイディアがあつていいなと思えました。永原副市長におかれまして、新八代駅周辺によかこ物産館とか作られましたが、僕は街中に街中物産館とかできてね、やつしろの農産物とか物産とかを実際クルーズ船でこられたお客さんを止めて、お客さんが実際買い物ができるというブースをね、やつしろの持続的発展のサイクルを作つていただくと、本当にいいなと思うんですけど、そういったことも考えていただければと思います。(文責：村田)

テーマ② 八代物流センター構想は広報誌121号に掲載予定